

第 1 号様式

(第 1 面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-8315
住 所 東京都中央区京橋一丁目15番1号
氏 名 味の素株式会社
代表執行役社長 藤江 太郎 印
(代理人) 執行役常務 川崎事業所長 吉良 郁夫
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第 9 条第 1 項 (同条第 4 項において読み替えて準用する場合を含む。) の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	味の素株式会社 川崎事業所		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区鈴木町 1 番 1 号		
該当する事業者 の要件	☒ 規則第 4 条第 1 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 2 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 3 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 4 号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の種類	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	アミノ酸製造		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		50,349 k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	2022 年度 ～ 2024 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	弊社の地球温暖化対策の取組みについては、弊社HPにて公表している。 http://www.ajinomoto.com/jp/activity/environment/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

地球環境が限界を迎えつつある現在、その再生に向けた対策は味の素グループの事業にとって喫緊の課題である。

味の素グループの事業は、安定した食資源に基づく健全なフードシステムとそれを支える豊かな地球環境の上に成り立っている。

「環境負荷の50%削減」と「10億人の健康寿命を延伸」の両立の実現に向け、中長期的な目標とKPIを設定し強みを活かしながら、様々な取り組みを着実に進めていく。

温室効果ガス排出量削減率（2018年度比）2020年度実績：14%削減
2025年度目標：30%削減
2030年度目標：50%削減

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

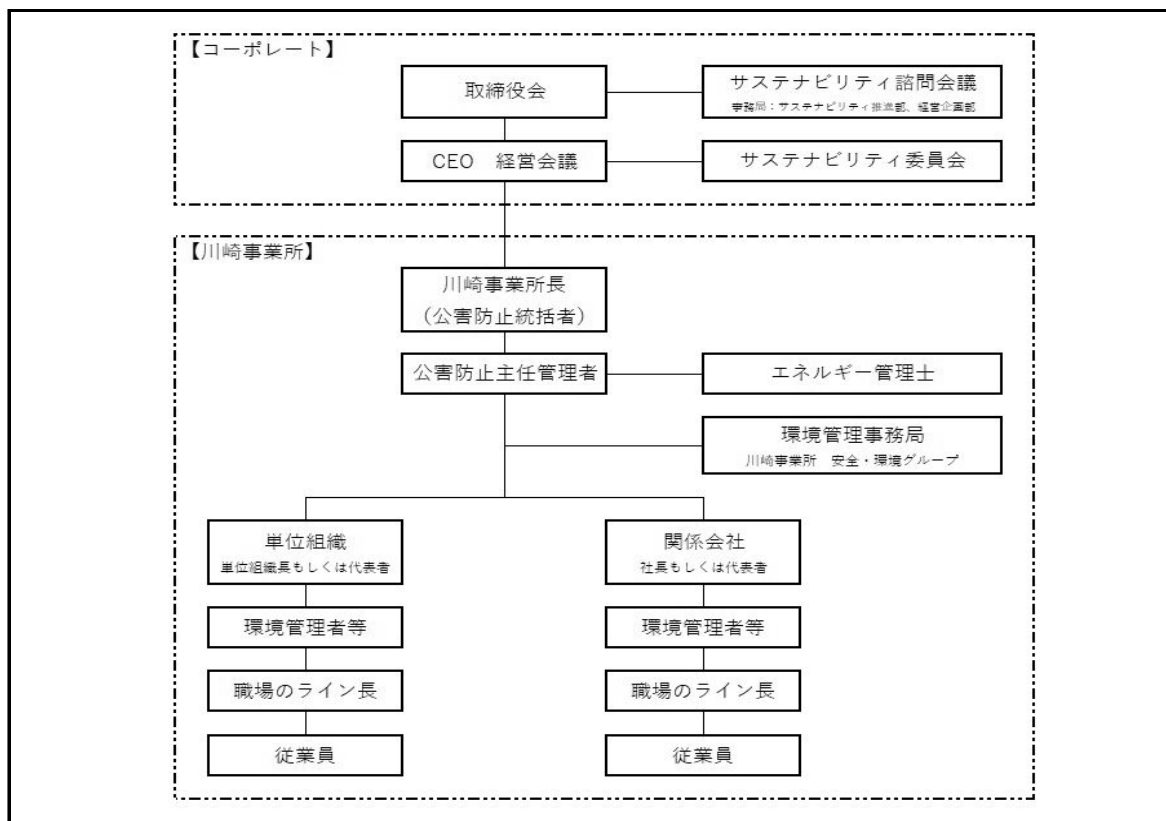
①年間1%のエネルギー原単位削減を目標とし、年度計画を策定する。

具体的な実施項目は毎月実施するエリア横断的な環境会議、各組織・会社単位の環境や生産実績に関する会議体、マネジメントレビュー会議などにて実績や取り組みを評価し、必要に応じた計画の見直しを行う。

②エネルギー使用量およびCO2排出量の実績管理を行い、省エネルギー部会の管理に基づいて、課題を整理して必要に応じた計画の見直しを行う。

以上の方針に基づいて、PDCAサイクルを回して実行・管理する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
基準年度		2021年度			
目標年度		2024年度			
基準排出量		(実) (調)	41,943 11,644 t-CO ₂	(実) (調)	t-CO ₂
目標排出量		(実) (調)	40,685 11,295 t-CO ₂	(実) (調)	t-CO ₂
削減量		(実)	1,258 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
内 訳	対策実施による削減量	(実)	1,258 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
	上記以外の削減量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
削減率		(実)	3.0 %	(実)	%

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原単位等の活動量		生産量			
原単位の単位		t-CO ₂ /千 t			
基準年度の値		8310			
目標年度の値		8061			
削減率		3.0 %		%	

ウ 目標設定に関する説明

温室効果ガスの排出量削減を図るため、環境会議や省エネルギー部会を中心としたPDCAサイクルを回すことにより、排出量原単位を年1%以上削減することを前提に目標を設定した。
--

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

＜味の素グループで設定した中長期目標＞		
味の素グループ全体のCO2排出量原単位削減率		
(目標値)		
2022年度	2018年度比	18%削減
2025年度	2018年度比	30%削減
2030年度	2018年度比	50%削減
※SBT基準 CO2排出量：Scope1・2総量		

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第 1 から 6 等を参考に記載してください。)

計 画	○生産設備のエネルギー管理 SOPを用いて適切な運転管理を行う。月次単位でCO2排出量原単位の実績確認および改善検討を行い、エネルギー管理のPDCAを回していく。 ○事務所等の空気調和の管理 エネルギー管理標準に基づき、エアコンの温度管理を行う。 特定フロンを使用した空調設備に関しては更新計画を策定し、順次ノンフロン型等の地球温暖化係数が低いタイプへの更新を推進する。 ○照明設備の運用管理 エネルギー管理標準に基づき、不要な電灯の消灯等による管理を行う。 併せて蛍光灯使用箇所については更新計画を策定し、順次LED照明に変更していく。照明器具に関しても更新時に高効率タイプへの更新を行う。 ○太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入 ○冷凍機・ボイラ等の更新時の高効率機器の導入	
第 1 年度		
第 2 年度		
第 3 年度		
計画期間における取組の評価 (第 3 年度の報告時に記載)		

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

省エネルギー関連の設備投資については、基準年度以前から以下のような取り組みを実施している。 ○生産設備のエネルギー管理 計空設備更新に伴い、省エネルギータイプへ更新した。 ○事務所等の空調機の管理 冷暖房温度（冷房 28℃、暖房 20℃）を目標に居室の冷暖房温度を徹底した。 特定フロンを使用した空調機を代替フロンを使用した省エネルギー型の空調機に更新した。 ○照明設備の運用管理 蛍光灯交換時期に合わせた節電型LEDタイプの照明へ交換を実施した。 【CO2排出量実績】 2019年度 47.5千 t 2020年度 45.1千 t 2021年度 41.9千 t

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検 討 結 果
太 陽 光	×	
風 力	×	
バ イ オ マ ス	×	
未 利 用 エ ネ ル ギ ー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	○	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	○	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	・ 環境貢献、SDGsに基づいた製品や技術開発の推進による川崎メカニズム認証を継続する。 ・ グループ関係会社を中心にモーダルシフトに取り組み、集積効率の向上や一部得意先への定期配送化による配送車両の削減等を行い、荷主の義務である輸配送に伴うエネルギー使用量原単位を5年間平均で年間1%以上削減を目指す。（2020年度実績：味の素(株)500km以上の長距離輸送のモーダルシフト率85%）
第 1 年度	
第 2 年度	
第 3 年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	1. グリーン購入の推進を行う。 森林生態系破壊リスクを考慮した紙資材の調達 2. 廃棄物の減量化、分別化の推進を図る。 3. 廃棄物の有効利用を促進する。 4. 業務委託会社に対する環境負荷の取り組みを要請する。 納品・廃棄物運搬業者へのECO運搬の要請
第 1 年度	
第 2 年度	
第 3 年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	41,943	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

50,349	K L
--------	-----

ウ 事業所の数

1

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
味の素株式会社 川崎事業所	川崎市川崎区鈴木町1番1号	41,943 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂